1分間に17人（内12人が子ども）
1日に2万5,000人
1年間では約1,000万人が
飢えのために生命を失っています。

一般財団法人
日本国際飢餓対策機構

2018 6 No.335

飢餓対策ニュース

わたしから始める、世界が変わる

特集 P.4-7 Child Supporter チャイルドサポーター

300人の子どもたちにサポーターが必要です

ボリビア・アサワニ地区の母子

ハンガーゼロ ～2つの飢餓を終わらせるために～

日本国際飢餓対策機構 総主事　近藤高史

支援地での教育の大切さを考えている最中、日本で起こったある大学スポーツでの危険行為を巡る報道に自分の耳を疑いました。「チームが勝つためには相手に怪我をさせてもよい」「従えなければチームに居場所はない」、こうした個人の意志や相手への敬意を踏みにじる言葉が、スポーツマンシップを誇る教育者である監督やコーチから出たというのです。それらの言葉はそっくりそのまま、飢餓が蔓延（まんえん）する紛争地で、戦いの最前線に追いやられる少年兵に掛けられる言葉、あるいは日本がかつて戦争へと突き進んでいった時代に、多くの若者を死へと追いやった指導者たちの言葉と同じだと思いました。日本に飢餓はないでしょうか。いいえ、私はここにはっきりともう1つの飢餓である「心の飢餓」の深刻さを見る思いがしました。

飢餓とは何かを考えていくと、表裏一体となった2つの側面が見えてきます。すなわち「心とからだの飢餓」です。そしてそれは片方だけでなく両方を撲滅しない限り、飢餓は亡者のように蘇り私たちを再び襲うのです。

ではどうしたらこの2つの飢餓を終わらせることができるでしょうか。そのカギは「教育」にあります。農業をされている方はご存知と思いますが、1粒の種が見事に成長するなら豊かな実を結び、何十倍、何百倍の新たな種を産み出します。それと同じようにたった1人の子どもでも、学問に加え、豊かな人間関係の中で愛情を注がれ、健全に幼少期を過ごし成長するなら、その実は決してその子1人に留まらず、その地域、あるいは国を変えていくリーダーを生み出すまでなり、次世代に至る大きな変革を社会にもたらします。そのことを思うとなんだかワクワクしてきます。

今号で紹介する「チャイルドサポーター」は、そんな世界の貧困地域に住む1人の子どもに日本から関わることができる働きです。わけても今、緊急に300人の子どものサポーターを求めています。これは日本国際飢餓対策機構が関わるウガンダ、ボリビア、バングラデシュ、カンボジア、フィリピンで、小学校に通えず今なお支援を待っている子どもたちの数です。あなたもぜひチャイルドサポーターのお1人になっては頂けないでしょうか。

「教育とは世界を変える為に用いることができる最も強力な武器です」ネルソン・マンデラ(元 南アフリカ大統領)
「1人の子ども、1人の教師、1冊の本、そして1本のペン、それで世界を変えられます」マララさん（パキスタン）国連演説

西南学院大学 フィリピン ワークキャンプ 2/23～3/5

西南学院大学のワークキャンプは、同じアジアの中の違う「アジア」を体験し、活動を通してボランティアマインドを育成することを目的として、毎年実施されています。
今回は、50名の希望者の中から選ばれた学生15名と大学引率者3名、JIFHスタッフ1名でFHフィリピンの活動地であるマニラ近郊のマラボン市トンスヤ地区とサンロケ地区を訪問しました。地区役所や学校への訪問、また人々が生活する場所に出向き、自分の目で見、聞き触れる体験をした学生たちの感想をご紹介します。

貧困の現実に触れて気づかされたこと

この光景は生涯忘れない

浅倉瑞歩 AsakuraMizuho
人間科学部社会福祉学科1年

活動の期間中、子どもたちに近所の海へ連れていってもらった。「いつもここで泳いでいるんだ！」笑顔で案内してくれた海をみて、私は絶句してしまった。この光景を生涯忘れることはないであろう。砂場など見えないほどにごみで埋め尽くされていたのだ。到底安心して遊べる海ではない。それらの腐臭で鼻も覆いたくなってしまうほどであった。しかし、それ以上に楽しそうに海のことを説明してくれる子どもたちの笑顔がとても心を締め付けた。

当たり前ではなかった教育

木下昇起 KinoshitaNorioki
商学部経営学科2年

僕は初めて『教育』の大切さを心から理解できた。素敵な可能性を秘めているのに、教育が受けられないという理由で、『貧困』という理由で、その可能性が摘まれてしまうのは確実に悲しい現実。僕は今まで教育ということについて考えたことなど一切なかった。だから、当たり前のように教育を受けることができて、どんな夢でも見ることができる僕の今の環境が本当にどれほど恵まれているのかが分かった。本当にめちゃくちゃ恵まれている。そして、そのことに気づけたことが、今回このワークキャンプに参加してよかったと思える一番の理由だ。自分の目で見たもの、直接感じたもの、一歩踏み出して経験したこと全て、僕の人生の財産だ。

関心を持つという第一歩

山下美空 YamashitaMiku
経済学部経済学科2年

活動日最後の西南タイムでは、ハンキンス先生から出されていた宿題「フィリピンで何を学べたか、何を日本に持って帰るか」に対してみんなで自分の意見を伝え合う時間を過ごしました。私が今回のワークキャンプで強く感じたのは、相手のために何をするか、何ができるかも大切だけど、1番大事なのは「関心を持つこと」だということです。マザーテレサの言葉に「愛の反対は無関心」という言葉があります。言語が違っても、相手が何を伝えたいのかに関心を持って向き合うことで心が通じ合う。生活環境が違うこと、言語が違うこと、文化が違うこと、これらの事実に対して、関心を持つからこそ考えることができる。行動に移すことができる。そもそも私自身、このワークキャンプに関心を持っていなかったら、あんなに充実した11日間は手に入らなかったし、身の回りに溢れている小さな幸せに気づくことは出来なかったと思います。関心を持つことこそが、思いやりの始まりであり、ボランティアの本質であるのではないでしょうか。

吸収することばかりだった

岡崎智美 OkazakiTomomi
人間科学部児童教育学科2年

フィリピンの人たちは物理的に考えたら貧しいのかもしれないけど、内面的な部分を見ると心が豊かな人が沢山いました。支援する側として参加したボランティア活動も、実際には吸収することばかりで、気がつけばもらうことの方が多くなっていました。今回ボランティア活動に参加できたこと、多くの人々との出会い、全てに感謝して今後自分にできることは何かを考え生きていきたいです。

自分を知って目標が見えた

山本えりか YamamotoErika
法学部法律学科4年

私はフィリピンで生まれ、フィリピン人の母を持つ。これは今もこれからもずっと変わらない事実。今回私が参加した動機は、母国の現状を目を逸らさずに確かめるというもの。生まれ故郷であるフィリピンに対してどこか自信を持てずにいた、そんな自分に折り合いをつけるため。

フィリピン人の笑顔と陽気さと優しさの

生徒会選挙活動の生徒とともに

たくさんの経験と思い出をもって帰国の途に

マングローブが大きく育つことを願って

中で毎日を過ごすことができ、特に子どもたちの笑顔と元気によって自身の持っていた母国へのイメージがガラリと変わった。だからか、現地で活動をしていく中で自分に自信がついてきたのだ。今ではフィリピン人の血を引くことを胸を張って自慢できる。

参加の動機は自分が変わりたいというものであったが、自分が変わったことによって、これからは誰かの為に何かをしたいという目標が見えてきた。視野が広くなった。フィリピンボランティアに参加することによって、自分の弱さや無力さを実感するが、それはむしろ感謝することである、とハンキンス先生に学んだ。

当たり前が当たり前でない

川山凌平 KawayamaRyohei
文学部英文学科3年

マニラ島の中でもマニラ市とマラボン市では、天と地の差であった。家の中は水浸しで薄暗い中、かがみながら生活している家庭、簡易的な小屋で暮らしている家庭。それに対して、テレビやラジオ、携帯電話を持っている家庭もあるなど様々であった。学校では基本、制服の着用が義務付けられているが、制服が買えなかったり、洗濯が間に合わなかったりで、私服で学校に来ている児童も少なくなかった。この貧困の格差を自分の目で見て経験できたことは、私にとって大変貴重な体験となった。

日本では当たり前なことがマラボン市では当たり前ではない。毎日食べるものがある、シャワーからお湯が出る、トイレに便座があり水洗である、布団が人数分ある、洗濯機で洗濯する、など私たち日本人にとっては、気にも留めない当たり前なことがマラボン市では当たり前ではなかった。そんな環境で生活することで、日本がどれだけ恵まれているか、私たちがどれだけ贅沢な生活を送っているかを改めて実感し、すべてのことに感謝して生きていかなければならないと強く思った。

「幸せって」何だろう

山之内玲奈 YamanouchiRena
人間科学部児童教育学科3年

子どもたちの笑顔に触れていくうちに日本のほうが貧困なのではないかと感じるようになった。それは物理的に貧困であったら不幸せと考えてしまっていたことに気付いたからである。私たちは「物理的に貧困＝不幸せ、裕福＝幸せ」というイメージを勝手に持っているのではないだろうか。フィリピンの人たちは「人と人とのつながり」という精神的な面でとても裕福であった。学校や近所の友だち、そして家族。とても温かい「絆」があった。

子どもにとって物理的な裕福さが本当に「幸せ」なのだろうか。今回のワークキャンプでは精神的な面で裕福、貧困があることに気付き、「幸せ」とは何か考える機会になった。

校舎の壁ペイント作業が終わったよ！

掃除をしながら、なぜ？？

沢岻陽奈子 TakushiHinako
人間科学部社会福祉学科3年

小学校の裏にある川の清掃の時には見た瞬間に衝撃を受けました。その風景には生ゴミから粗大ゴミ、たくさんの木の枝や中には子犬の死骸まであり、臭いは正直すごく強烈でした。私たちはその川の清掃をいくつかのグループに分けて行い、清掃をしながら「なぜこんなゴミが集まるのか」「なぜ誰も清掃をしないのか」と考えてゴミを収集しました。後で話を聞くと、地域や政府の力で年に数回は清掃が行われているそうです。またその川岸にマングローブの苗を、フィリピンを襲う自然災害が少しでも影響を阻止できるようにと思いながら3人一組になって植えました。

フィリピンでの11日間という生活の中で、私たちグループの安全を守ってくれた現地の方々やFHフィリピンのスタッフの皆さん、毎日ご飯を作ってくれたボランティアのお母さん方など皆さんに心から感謝しています。

14年にわたりワークキャンプを引率されたリディア・ハンキンス先生㊨は4月で離日されました

小学校にさえ通えない子どもが世界に6,100万人。
その原因の多くは貧困です。貧困の解決と子どもたちの教育を実現するために、

300人の子どもたちに サポーターが必要です

特集 **Child Supporter**
チャイルドサポーター

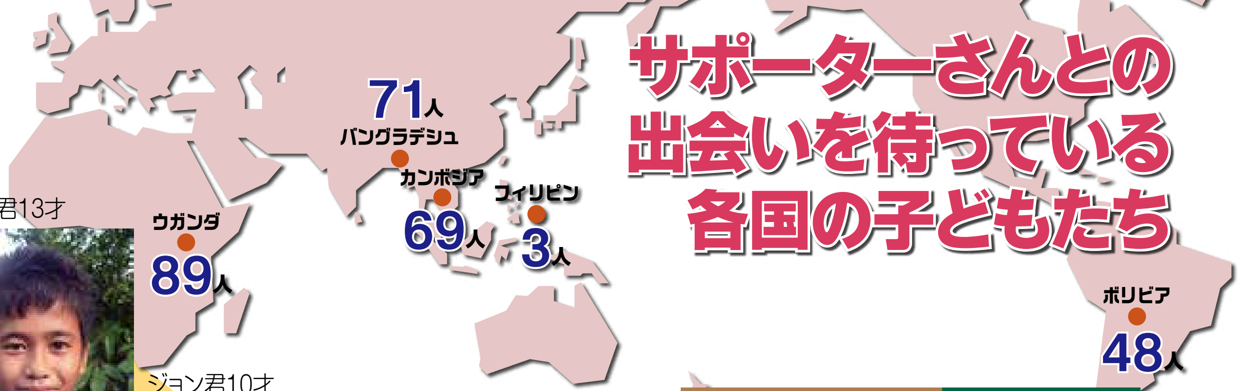
貧困問題は、経済的な欠乏に対して資金を投入する直接的な支援だけでは解決できません。急場はしのげても貧困の根本解決にならないからです。かえって支援への依存心を強め自立から遠ざけてしまう危険すら伴います。

カースト制度が色濃く残る国で支援を受ける人々は、最下層と言われる人々です。そこでは階層が人々の価値を決め、仕事を決め、教育の機会を奪います。このように文化や歴史が複雑に絡み合って、人々の内側に絶望が根付いていきます。この「価値観」が変わり始める時、希望が生まれ、貧困の連鎖は解消されていくと私たちは考えます。そして将来を担う子どもたちの教育が実現するのです。

物心両面の貧しさへのアプローチ

支援プログラムでは、収入改善を初め様々な分野にわたるトレーニングを行い、人々は主体的な参加によって知識や改善を手にしていきます。活動の中では、全ての人の存在は尊く、誰にも可能性が与えられていることを人々に伝え、能力の開花を期待して励まし続けることを大切にしています。物心両面への働きかけを受けて一人ひとりが変わり、子どもが子どもらしく健やかに育つことのできる地域が現れます。現在5ヵ国で1,800人の子どもたちと地域活動を当機構は応援していますが、その中の300人の子どもたちがサポーターを必要としています。地域の貧困の解決と子どもの教育が実現される道のりを子どもと共に歩いてください。世界は必ず変わります。

サポーターさんとの出会いを待っている各国の子どもたち



ジョン君15才

JUMP !!

ジョン君13才

STEP !!

ジョン君10才

HOP !!

子どもたちの未来のために

◆子どもの成長ぶりには驚いています。彼女の今と将来の祝福をお祈りしています。（サポーター　K・Sさん）

◆「机のない外で、一生懸命勉強している子どもがいるんだよ」と自分の息子に意識してもらえたらと願っています。（サポーター　M・Dさん）

◆子どもの成長が手に取るように分かり、現地の方々を含め、皆さまの尊い活動が大いに用いられていると思います。（サポーター　A・Kさん）

◆子どもの写真にたくましく成長されているのを感じ一同喜んでおります。（サポーター　S教会さん）

◆子どもが健康に成長していてとても嬉しいです。（サポーター　T・Sさん）

メリッサ成長の源　子どもを支援する　ボリビア

メリッサの家族は両親と祖父母、兄弟4人です。支援に参加するまではパパイヤ、レモンなどの果物と少しの穀物を作っていました。家族全員が満腹し、栄養が取れるほどの食べ物はありませんでした。現在、支援を受けて家族はジャガイモ、さつま芋、ピーナッツ、グアバも作るようになりました。収穫した物をコチャバンバの町で販売して収入を得ています。また鶏10羽を育てて、卵、鶏肉などのタンパク質を取れるようになりました。

子どもたちも十分に食べられるようになり、学校で活発に活動しています。メリッサは成績が優秀な生徒です。

メリッサ自身は生活に希望を持っていませんでしたが現地のスタッフとの交流や、サポーターの存在に励まされ、積極的に勉強するようになりました。サポーターからのお手紙は彼女の生活や勉強を前進させる動機になっています。チャイルドサポーターとの出会いが彼女の性格を明るくし、行動にも責任感がともなうようになりました。

改善は大きな喜び　活動支援を終えて　カンボジア

サンタピアップ村の長老であるトゥオン　サム　ホゥエンさん（63歳）「支援活動で得た知識は我々の身につき誰にも奪われることはありません。その価値は何にも比べられません。私の村で見る多くの生活の改善は大きな喜びです。」

地域の人々は、成功することもあれば失敗することもあります。しかし自分たちのペース、自分たちの方法でやり遂げる達成感が次の課題に取り組む原動力となり、成功体験がより良いものを求める動機となります。自分たちのペース、自分たちの方法がその変化を持続可能にするのです。そしてついには物心の貧困がなくなり、外部の支援を必要としない日を迎えることができます。

CS専用ウエブサイト

Child Supporter チャイルドサポーター　2つの支援方法

子どもを支援する

支援地域の特定の子どもとつながり、その地域で行われる活動をご支援いただきます。あなたと出会い、応援を受ける子どもは自分が愛される大切な存在であることに希望を抱き、地域を変えるひとりへと成長していきます。

月々4,000円
子ども1人を支援することできます。

活動を支援する

子どもたちが暮らす地域で行われる様々な活動をご支援いただきます。地域に住む人々がそれぞれの役割を果たし、子どもを取り巻く環境の改善と質の向上を目指します。

1,000円～
月々または自由なタイミングで支援できます。

お申し込みは直通☎072(920)2226 チャイルドサポーター事務局まで

特集 Child Supporter チャイルドサポーター

そこで暮らす人々に寄り添うプロセスが結実

FHボリビア 活動地訪問
報告：黒坂栄司

2018年4月、当機構の親善大使である歌手のManamiさんと、田村総主事と共に支援地であるボリビアのタパカリ郡アサワニ地区（標高4,000m以上の高地）、トロトロ郡リオカイネ地区(標高1,800m)を訪問する機会が与えられました。

壮大な景色に感動しながらも、平坦な道は少なく落石の危険があり雨が降ればどろどろになる道を車で半日程走りました。アサワニ地区は高地で、歩くだけでも息が切れるような場所であり、このような厳しい環境下で生活している方がいるということだけでも驚きでした。

●アサワニ地区
コンフィタル温室栽培

高地ゆえにジャガイモ類ばかりで子どもたちに栄養の偏りがあるので、FHでは温室栽培で人参・ブロッコリーなどの緑黄色野菜を栽培する事ができるようにしてきました。温室の中は汗ばむほど暖かく、土壌は家畜の糞などで半年ほど時間をかけて改良され、自作のスプリンクラーを使うなどの工夫がなされていました。

●ヤルビコヤ村
灌漑プロジェクト

FHによるタンクの設置（写真㊦白いタンク）により各家庭と農地に水が行き渡り、農作物の育成と家庭衛生環境も改善しているとの事でした。

●リオカイネセンター
鯉の養殖プロジェクト

この地域では子どもたちに必要な蛋白源を得るために鯉の養殖（写真㊦）をしています。養殖は2年前から始まり現在4家族で行われ、好調な池では150匹程の稚魚がいるとのことでした。

「夢マップ」による訓練

地域の変革のためにFHスタッフは、まず地域の方々とミーティングを重ね、地域の問題点や課題を洗い出し、それは自分たちでコントロールできるのか、助けが必要ならどのように連携すればよいか等を具体的に人々と話します。さらに「夢マップ」を作成し、人々がビジョンを持ち実行していけるように、リーダー訓練をしています。また年4回ミーティングを行い、振り返り、評価し、修正を加えながらプロジェクトを実行しています。

訪問を終えて…

心に残ったことは、各フィールドへのアクセスの困難さ、特に標高4,000mを超える高地という厳しい環境の中、小西駐在員、FHスタッフが忍耐強く献身的に働かれている姿です。聖書の価値観に基づいて、**そこに暮らす人々に寄り添い信頼関係を築きながら、人々に「気付き」を与え「意識を変革」していく働き**でした。このような働きを通して地域が変革され子どもたちの笑顔と希望が溢れていく結実の一端を見ることができました。

また、かつてチャイルドサポーターの支援を受けていたFHボリビアスタッフのエドワルドさん（写真㊦）を通して、多くの子どもたちが励ましを受けていることを思い、支援してくださっている方々への感謝を新たにしました。

本当に必要なもの

日本国際飢餓対策機構　親善大使 Manami

　日本で手に入らないものはあるでしょうか。
ショッピングセンターには高級な食材も輸入品も最新の電化製品も薬もなんでも揃っています。今ではコンピューターのボタン一つで家まで届けてくれるほどです。
　まさに日本で流行った「断捨離」という言葉は、物が溢れすぎて、必要なもの、必要でないものを見分けることすらできなくなってしまった私たちの心の問題を映し出しているように思います。

　さて、今回ボリビアを訪問して、特に私の印象に残ったのはアサワニ地区での家庭訪問でした。コチャバンバから車で半日かけてたどりついたアサワニ地区の標高は4,000m以上、空気が薄くて私たちにとっては歩くことも困難な場所でした。また1日の気温の差が激しい上、空気がとても乾燥しているので肌は日焼けしてすぐに皮膚がむけてしまいます。「こんな場所にどうやって人が住めるの」息が苦しくなる度にそう思わざるを得ませんでした。
　そんな環境下では育つ作物も限られています。アサワニ地区で獲れるのはほとんどがジャガイモなので、そこに住む人たちの栄養の偏りが問題視されていました。
　最初の家庭訪問では、こうした問題改善のためにFHボリビアの協力で作られた温室栽培の畑を見学。人参やブロッコリーなどそれまで栽培できなかった作物が育っている様子にみんなとても嬉しそうでした。私もその姿を見て嬉しくなったと共に日本との環境の違いにただただ驚かされました。

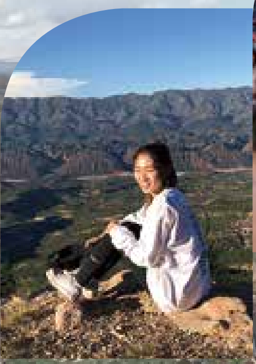
「足りない」と「溢れて捨てる」が同じ地球で…

　そしてもう一つ考えさせられたのは、家庭訪問の際にFHからその家にお渡したプレゼント。（インタビュー協力の感謝として）それは油、水、お米、チョコクッキーなどが入った食料セットでした。これらを選んだ理由をスタッフに聞くと、ここでは調味料でさえ手に入れるのに遠くまで出かけなければならないのと、チョコクッキーなどのお菓子も中々手に入らないのでとても喜ばれると伺いました。それを聞いた時、私はなんとも言えない気持ちになったのを覚えています。

　生活に必要な物のために試行錯誤して生産に取り組んでいるアサワニの現状、一方で物が溢れてたくさんの食料廃棄が起こっている日本の現状。これが同じ地球で起こっていると知った時、いてもたってもいられなくなりました。

疑問や違和感が歌や曲作りの力に

　ボリビアから日本に帰ってきて、街を歩きながら何度も思うのです。「豊かさ」とは何でしょうか。「豊かさ」とはなんでも手に入れられることでしょうか。それとも必要な物を見極める心でしょうか。私は日本で歌手の仕事をしていますが、ボリビア訪問を通して感じた疑問、違和感、自分への問いかけが、今は歌や作曲の原動力につながっていることは言うまでもありません。



Manami

沖縄県那覇市出身。2008年世界的プロデューサーファレル・ウィリアムス（2014年グラミー賞受賞）と世界的デザイナーNIGO主催の『STAR BAPESEARCH』でグランプリを受賞。2010年11月オリオンサザンスターCMソングに大抜擢され、メインキャラクターとしてCMに出演する。2013年7月「Jungoldennight」2016年「踊れティーダ」など数々の楽曲が県内ヒットを記録する中、精力的に沖縄の各メディアから数万人規模のビッグイベントまで多数出演する。楽曲は、欅坂46や前田敦子などの楽曲を手がけ、日本の音楽シーンの第一線で活躍中の実の弟DaisukeNakamuraがプロデュースしている。沖縄を代表する女性シンガーとして、さらなる飛躍が期待されている。CDアルバム4枚、シングルCD7枚好評発売中。

JIFH 世界の飢えた人々に食糧と愛を

日本国際飢餓対策機構（Japan International Food for the Hungry：略して JIFH）は、イエス・キリストの精神に基づいて活動する非営利の民間海外協力団体（NGO）です。1981年に誕生して以来、世界の貧困・飢餓問題の解決のために、自立開発協力、教育支援、緊急援助、人財育成、海外スタッフ派遣、飢餓啓発などに活動を広げてきました。現在は、国際飢餓対策機構連合（Food for the Hungry International Federation）の一員として、20ヵ国 60のパートナー団体と協力し、アジア、アフリカ、中南米の開発途上国で、「こころとからだの飢餓」に応える活動をしています。

★Tポイントを利用して「南スーダン・マブイ小学校給食支援」ができます。現在までに56497ポイント（円）のご協力（5855件）がありました。募金はTポイント募金で検索

これからの季節に役立つストール
～エチオピアのフェアトレード商品～

冷房の冷えや夏場の日差し対策にいかがですか。
素材：麻100％
サイズ：約45㎝×200㎝
色：①キゥイ ②ルビー ③ブルー
価格：各6,000円
今回 各色5本限定。無くなり次第終了します。ご注文時にお好みの色を番号でご指定ください。梱包送料：500円　合計6,500円でのお届けです。
●チャイルドサポーターの方は送料無料（会員番号をお知らせください）
収益の一部をＪＩＦＨの活動に寄付させていただきます。
【お支払いは後払い】
郵便局払込で㈱キングダムビジネス口座へ。
【問合せ】キングダムビジネス
〒540-0026 大阪市中央区内本町1-4-12 NPOビル402
TEL:06-6755-4877　FAX:06-6755-4888

8月 ファシリテータートレーニングin 関西
～こころとからだの飢餓問題を学びませんか～

8月27 日から31 日までの日程で開催する「ハンガーゼロ・ファシリテータートレーニングキャンプin 関西」（KBI 関西聖書学院内）の参加者を募集しています。キャンプでは、将来途上国で働きたいと願っておられる方、また世界の諸問題について知りたい方に「**飢餓とは何か**」、「**自分には何ができるのか**」を考える時間を持っていただきます。共同生活をしながら、専門的な講義とともに参加者同士でグループワークもして楽しく学びます。
特別講師：酒井保（ハンズ・オブ・ラブ・フィリピン）

参加費3万円（食費・宿泊費込）※会場までの交通費は除く
お申し込みは、JIFH 東京 03-3518-0781

8月17～27日（11日間）
ウガンダサマーキャンプ
お早めに。残席あと少しです!!

現地で貧困から自立に取り組む方のお話を聞いたり、子どもたちの家庭訪問もしたり楽しい交流プログラムを持ちます。サファリも訪問予定。
募集人数：11名（高校生以上）
費用：335,000 円（6/10までは33万円）
※上記以外に空港使用料・税、燃油サーチャージなど必要。
お申し込みは、JIFH 東京 03-3518-0781

★「書き損じはがき」「未使用切手」で国際貢献ができます！

郵便局で発売された「はがき」（年賀状も含む）で書き損じたものでポストに未投函のもの、また未使用切手などがありましたら**大阪事務所まで**お送りください。国内外の通信費の節約のために使わせていただきます。

サポーターのお申し込み蘭 チャイルド＆ハンガーゼロ

今すぐ▶▶▶各種支援のお申し込みができます!!

●まず右の必要事項に記入して、点線の枠部分を切り取りハガキに貼って、下記の大阪事務所宛に郵送、又はこの頁をコピーして、ファクシミリで申し込みください。確認のための必要書類等を送らせていただきます。
お電話でも申し込みできます。各事務所までおかけ下さい。

☐ チャイルドサポーター（子ども1人 4,000円）になりたいので説明書（申込書）を送ってください。
☐ ハンガーゼロサポーターとして協力します。
毎月（　　）口　（1口 1,000 円）
☐ 海外スタッフサポーターとして協力します。
毎月（　　）口　（1口 1,000 円）
☐ JIFHサポーターとして協力します。
毎月（　　）口　（1口 500 円）
☐ 郵便自動引落し申込書を送って下さい。
☐ その他の銀行自動引落し申込書を送って下さい。

フリガナ
氏名：　　　　男・女
フリガナ
住所：〒
（電話）
▼申込日：　　年　月　日▼NL 335 号

FAX・072-920-2155

毎月、飢餓対策ニュースを皆様にお届けするために、ひばり障害者作業所（八尾市）、生活愛、関西地区のボランティアの皆様が発送作業の協力をして下さっています。

■発行者　清家弘久
■発行所　一般財団法人　日本国際飢餓対策機構
ハンガーゼロで検索！
Webサイトアドレス　http://www.jifh.org/
ｅメールアドレス　general@jifh.org
フェイスブック　https://www.facebook.com/hungerzero
■募金方法　※各種方法で随時受付中、詳しくは電話やウエブサイトで
●郵便振替　00170−9−68590／日本国際飢餓対策機構
●他の金融機関からの自動振替●クレジット、デジタルコンビニ
今すぐ募金ができます！　銀行からの自動振替　クレジットカード決済　コンビニ端末で現金振込　かざして募金

大阪（広島）〒581-0032 八尾市弓削町 3-74-1
TEL（072）920-2225　FAX（072）920-2155
東京（東北）〒101-0062 千代田区神田駿河台2-1 OCC ビル 517 号室
TEL（03）3518-0781　FAX（03）3518-0782
愛知 〒460-0012 名古屋市中区千代田 2-19-16 千代田ビル3F
TEL（052）265-7101　FAX（052）265-7132
沖縄 〒900-0033 那覇市久米2-25-8 メゾン久米 202号
TEL（098）943-9215　FAX（098）943-9216
USA Ainote International c/o Mr. Takehiko Fujikawa
8010 Phaeton Dr. Oakland, CA94605
TEL（510）568-4939　FAX（510）293-0940

JIFH　チャイルドサポーター

「かざして募金」はスマートフォンからご利用できます。募金は、ソフトバンクモバイル(株) 経由となります。詳しくはウエブサイトをご覧ください。